


## 山 行 報 告 書

山行報告者：加藤

山 域・山 名：二子山（東岳1122m、西岳1165.8m）（埼玉県 小鹿野町）	
入山日又は期間：平成30年8月31日(金) 日帰り	
参 加 者	加藤 1名
	
天候 晴れ時々曇りのち雨	
8月31日 (金)	6:37 南浦和駅から武蔵野線乗車～新秋津駅下車、秋津駅西武線に乗り換え 8:43 西武秩父駅着、9:04 西武秩父駅発小鹿野役場行のバスに乗車 9:40 小鹿野役場着、9:55 坂本行のバスに乗り換え～10:30 坂本バス停着 11:50 股峠着～12:30 東岳山頂～13:00 再び股峠へ、軽食～13:30 西岳山頂通過～ 14:40 魚尾道（よのお）峠通過～15:15 車道に出る～15:40 坂本バス停着、 16:34 小鹿野役場行バスに乗車～17:55 西武秩父駅着、18:03 飯能行 電車乗車
装 備 と 食 糧	個人装備：ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、ヘルメット、 グローブ、着替え、衛生用品、折りたたみ傘、携帯電話、昼食、 行動食、水1.5ℓ、

アクセスの不便な場所柄、登山開始が10時半過ぎ。天気は西から下り坂。間近に迫る両神山の稜線が濃い雨雲に覆われていくのを横目で見ながらの、集中登山となる。二子山はイカれた山だのクレイジーだの散々な言われ方をしているようだが、実際登ってみると、ステップは絶妙な位置にしっかり切れているし、石灰岩のザラついた岩が安定したホールドを保ってくれて、見た目のエグさに反してとても「真面目で誠意ある」山だった。

勿論、それなりの高度感はあるので落ちたらただでは済まないが、それはこの山に限ったことではなし、外観や外枠の数値も確かに重要だが、足元の絶壁を見下ろしながら登攀する人などいないわけで…。要は、次の手がかり足掛かりに集中する際の、体で感じる岩の摩擦や強度、ステップの幅などが、その人にとってのその山の難易度なんではないかな、と思った。

西岳から先の稜線歩きも、両側の切れ落ち具合は半端でなかったものの、体一つ分の幅にしっかり固められた踏み後がついていて恐怖感はなく、ところどころにペンキやテープがつけられ、鎖やステップ用の金具も要所要所に用意されていた。

ただ、岩稜から逸れて進行方向左に下る分岐を通り過ぎてしまい、上りなおした。分岐のピンクのテープを見逃さないよう注意が必要。

登山道に降りてからはなだらかな下りが1時間弱続き、サクサク歩いていると張り詰めていた神経がずいぶんほぐれた。

この日は昼過ぎまでは日差しが強く、無風で高湿度、頭から水をかぶったぐらいに汗をかいた。岩も熱かった。

また、ネットで知った「秩父漫遊切符」なる周遊券を初めて使ってみたのだが、これがお得感満載の優れもので、通常は5000円近くかかる交通費が、このフリーパスのおかげで半額に抑えられた。

秩父方面の山行にはぜひお勧めしたい。行き帰りのバス電車で一緒になった、都内在住の看護師の女性。奥穂高の魅力を余すことなく語ってくれた。

好きな山を語るとき、ひとはどうしてこうもいい顔をするのだろう。

まるでその人の瞳の中に山の風景が映り込んだようだった。

帰宅ラッシュの人ごみの中、連絡先はおろか名前すら聞きそびれてしまった。

20時過ぎ、やっと最寄り駅到着、駅前の本屋で穂高の山地図を買って帰った。